

‘開発途上’の課題共通 ジャイカ 海士町でJICAが研修

独立行政法人国際協力機構（JICA）は、開発途上国の地域課題支援などを行う日本の政府関係機関の一つです。昨今の政府関係機関の地方移転の動きを受け、海士町ではJICAとの連携強化を進めており、今年度からJICAが行う開発途上国向け研修の一部を海士町で実施することが決定しました。アフリカ諸国等の研修員を対象に、7月には「観光」、11月には「教育」をテーマとした研修が海士町内で行われる予定です。

JICAと海士町の連携に疑問をもたれる方もいるのではないのでしょうか。しかし、海士町もいわば開発途上の島。地域の課題解決を図り、未来に向けどう発展させていくかという点では取り組む内容は共通しています。

ローカル（地域）とグローバル（世界）の課題を掛け合わせつつ、共に学びながら連携を深めていくことで、世界の開発途上国と海士町の発展に繋げていければと考えています。

（総務課 濱中香理）



5月3・4日、ひまわり運動公園において、「フットサルフェスティバル in 海士 Vol.8 蹴球祭」が開催されました。蹴球祭は、有志による若者活性化事業実行委員会が主催するゴールデンウィーク恒例のイベントで、地元チーム「蹴球一家」と島外のチームがフットサルや直会を通じて交流を深めることを目的としています。

第8回目を迎えた今回は、松江市から2チームが参加。1日目は雨、2日目は暴風という悪天候でしたが、男性のみのオープン部門と女子混成のミックス部門が予定通り行われ、雨にも風にも負けずにフットサルを楽しみました。

オープンではTMN（松江）が制し、蹴球一家は準優勝。ミックスでは地元・木村理恵さんが得点王に輝きました。

実行委員会では、2年後の第10回記念大会に向けて、「フットサルがつなぐご縁をさらに広げていきたい！参加チーム大募集!!」と気合いを入れています。

今年もとって隠岐！ スリーデーウォーク

5月28〜30日までの3日間、隠岐4島を巡ってウォーキングを楽しむイベント「第14回とって隠岐スリーデーウォーク」が開かれました。

海士町を歩くコースは初日。キンニヤモヤ踊りに見送られ、エイエイオーのかけ声を合図に、島外からの参加者約100人と、島民向け「歩こう大会」参加者が一斉にスタートしました。この日は午後には知夫村を巡るコースとなっており、参加者は10キロ・23キロ・30キロから好きな距離のコースを選んで歩きました。

スリーデーウォークは、ただ歩くだけではなく、参加者と地元住民の交流の場でもあります。全国からお越しいただいた健脚自慢の皆さん、今年もたくさん笑顔をありがとうございました。



元気な海士

パワー溢れる海士人の活動・活躍をご紹介します！



海士町観光協会の巧みな受入戦略を説明

第10回 島会議
《定住会議》
「受け入れる意志と戦略」があるか。

5月7日(土)、島民ホールにおいて、第10回島会議が開催されました。

今回のテーマは「受け入れる意志と戦略」。海士町観光協会とふるさと島根定住財団が共催し、「イターン者が走るべきステージとゴールは、受け入れる地域が意志と戦略をもって決めるべきだ」という考えを軸に、さまざまな角度から議論されました。来場者は約70名で、今回は通常よりも多くの地元民が参加しました。

冒頭、地方創生における地方の定住戦略について語った原田淳志・総務省地域力創造審議官は、「定住という言葉に縛られ過ぎず、『来るもの拒まず去る者追わず』の海士町のような自然体がいい。人の流れを作るためには、まず地域の魅力を磨くことが大前提」と指摘。そのためには、人材の多様性をつくっていく努力と、多様性への寛容さ、さまざまなモノ(資源)を発掘していく気持ちが大切で、地域の人が誇りをもって目指すビジョンを共有できていることが結果的に人を呼び込むことにつながるのだと強調しました。



定住事例の紹介コーナーで登場したのは、笹鹿岳志・恵子夫婦(↑)と、石田大悟・なつ子夫婦(↓)。ともに東区の持苗(もちなえ)団地在住



続いて「海士町の受入戦略」と題し、ふるさと島根定住財団の奈良井健悟さんと島根県庁地域振興部の田中壮一さんが海士町観光協会の取り組みを紹介しました。島の素材を扱う和食料理人の育成学校を作る「島食の寺子屋プロジェクト」や、特定人材派遣業を海士流にアレンジした「島のマルチワーカー」など、『仕組み』・『島にある資源』・『仲間』という観点から各ステージを設定し、最低限のお膳立てをした上で人材をはめ込み、「あとは自分で切り開いていってもらう」というのが海士町観光協会のやり方です。

「明確な役割を用意し、自分事として取り組んでいってもらう環境をつくるのが、海士町観光協会の受入戦略のキモ」とまとめました。

事例紹介では、実際に海士町で暮らす2組の夫婦が登場し、移住のいきさつなどをざっくばらんにトーク。その進行役は、かつて海士で暮らした竹本吉輝さん(株式会社トビムシ代表取締役)と後藤隆志さん(夜カフェ10オーナー)が務めました。

観光協会事務局長を兼任する役場交流促進課の青山富寿生課長は、「観光と定住は同じで、いかに人を呼び、うまくマッチングしていくか。来る人が楽しめるのが大事なので、うまくハマって幸せになれるように、なるべくミスマッチが無いようにしたい」と語り、島会議を締めくくりました。

次回島会議は、7月6日(水)です。お問い合わせは海士町観光協会まで。

TEL【08514・20101